

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と考察

兵庫小学校

令和4年度全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため、国が実施しているものです。

兵庫小学校では、この調査結果を把握・分析し、成果と課題を検証することによって、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てていきます。

I 調査の概要

1 調査の対象

小学6年生児童16名（男子6名 女子10名）

2 調査の内容

①教科に関する調査（国語・算数・理科）

- ・調査する学年の前学年までに含まれる指導内容が原則
- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等
- ・知識、技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3 調査実施日

令和4年4月19日（火）

II 調査結果（国・算・理）

1 国語

①平均正答率について

- ・令和4年度は全国の平均、福井県の平均を大きく上回った。
- ・福井県との差、全国との差の本校前年度との比較では、向上が見られた。

②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、平均以上（10問）正答している児童の割合は高いが、満点や満点に近い児童の割合は低い。

2 算数

①平均正答率について

- ・令和4年度は全国の平均をやや上回ったが、福井県の平均はやや下回った。
- ・福井県との差、全国との差の本校前年度との比較では、大きく低下した。

②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、およそ平均数正答している児童（9～11問）の割合が高い。正答数が多い児童（12～16問）の割合は、およそ低い。

3 理科

①平均正答率（昨年度理科の調査は実施していません。）

- ・令和4年度は全国の平均及び福井県の平均を大きく上回った。

②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、満点は除き、平均以上（12問）正答している児童の割合は高い。また、平均より少ない正答数の児童の割合は、一部（福井県の9問）を除き、低い。

Ⅲ 分析と考察（国・算・理）

1 結果概況

国語や理科では全国及び福井県の平均正答率を大きく上回り、算数では全国及び福井県の平均正答率とほぼ同等となりました。ただし、設問によっては全国及び福井県の平均正答率を下回る項目もあります。その他、よい傾向として、無回答率が非常に低いことが挙げられます。問題形式においても、算数の選択式を除き、選択式、短答式、記述式ともに全国及び福井県の平均正答率を上回っており、確実な知識等が備わっていることがうかがえます。

2 教科別考察

① 国語

「良好」であること	
○話し言葉と書き言葉の違いの理解	（本校100% 全国85.5%）
○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	（本校87.5% 全国68.8%）
○必要なことを質問し、話し相手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える	（本校93.8% 全国84.7%）
○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること	（本校87.5% 全国68.4%）
○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること	（本校81.3% 全国59.2%）
「課題」であること	
△互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめること （本校37.5% 全国47.7%）	
<課題解決のために>	
・調べ学習などで収集した情報を目的に応じて項目別に整理する力を付けるために表やメモ作りの活動を意図的に取り入れ、それらをもとに自分の考えをまとめる学習を行います。	
・自分の考えをまとめる際に、簡潔で分かりやすい文章に表せるよう、字数や書く内容を指定する「条件作文」に継続的に取り組んでいきます。	
・国語で学んだことを生かして、総合的な学習の時間や特別活動、学校行事の中で、学校生活や地域社会におけるさまざまな問題を、一人一人の児童が自分事としてとらえ、多角的に解決策を考え、文章にまとめていく学習活動を十分に行っていきます。	

② 算数

「大変良好」であること
<p>◎示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由の記述-3列7個ずつ並んだ21個で1470円のカップケーキ7個分の値段- (本校93.8% 全国76.0%)</p> <p>◎表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること-合計数が分かっており、一つの項目だけが分かっていないアンケート調査の結果の表で、その項目に当てはまる数を求める- (本校100% 全国75.3%)</p> <p>◎加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述すること-1年生の希望1人10ポイント、6年生の希望1人5ポイントとして計算する- (本校93.8% 全国67.7%)</p>
「良好」であること
<p>○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること-1050×4- (本校93.8% 全国92.4%)</p> <p>○二つの数の最小公倍数を求めること-14と21の最小公倍数- (本校87.5% 全国72.2%)</p>
「課題」であること
<p>△数量が変わっても割合は変わらないこと-果汁20%のジュースを2人に分けたときの、1人分のジュースの果汁の割合は変わらない- (本校6.3% 全国21.4%)</p> <p><課題解決のために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で使われているさまざまな割合について取り上げる時間を十分にとり、算数をより身近に感じられるようにします。 ・文章を批判的に読む力をつけていきます。初めから正答を求める学習だけでなく、誤答について、どの部分が違っているのかを説明する学習も行っていきます。 <p>△目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ること-適切な円グラフを選び、そのグラフから割合が一番大きいものを選ぶ- (本校50.0% 全国66.8%)</p> <p><課題解決のために></p> <p>日常生活の事象を数理的に捉え判断することに課題が見られます。伴って変わる2つの量を学習する際は、児童にとって身近な問題場面について考えたり、場面の状況を変えて改めて解決方法を考えたりする等、学習活動を工夫します。</p> <p>△示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断すること (本校43.8% 全国57.6%)</p> <p><課題解決のために></p> <p>授業では具体物进行操作しながら図形を構成したり、分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにする活動を充実させます。</p>

③ 理科

「大変良好」であること	
◎昆虫の体のつくりの理解	(本校 93.8% 全国 73.1%)
◎メスシリンダーの正しい扱い方の理解	(本校 100% 全国 70.0%)
「良好」であること	
○ナナホシテントウは、たまご、幼虫、さなぎ、成虫の順に育つことの理解	(本校 87.5% 全国 67.5%)
「課題」であること	
△日光は直進するというものの理解	(本校 31.3% 全国 27.8%)
<課題解決のために>	
<p>授業では、日光を始めその他目に見えないものの姿や影響について考える楽しさなどを感じさせる活動を充実します。また、目的意識をもって実験や観察を行う習慣をつける工夫をします。</p>	
△凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書くこと	
(本校 50.0% 全国 66.8%)	
<課題解決のために>	
<p>日頃から、疑問をもつということを意識させられるようにします。また、それらが解決できるという実感をもたせられるようにします。</p>	

IV 質問紙調査結果の分析と考察

質問紙の結果から「良好」であることと「課題」であることをまとめました。

○「良好」であること

◎前向きな気持ちで学校生活を送ったり学習に取り組んだりしている児童が多い

<肯定的な回答が多かった質問事項>

- ・学校に行くのは楽しい
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている
- ・学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる
- ・将来の夢を持っている
- ・人の役に立つ人間になりたい
- ・難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している
- ・算数の問題で解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考える

◎国語・算数・理科を学ぶ意義や重要性を理解している児童が多い

<肯定的な回答が多かった質問事項>

- ・国語や算数、理科の勉強の内容はよく分かり、好きである
- ・国語や算数、理科の勉強は、大切であり、将来社会に出て役に立つ
- ・算数や理科で学習したことを普段の生活で活用できないか考えている

◎授業では自分の考えを持ち、他者と協働しながら課題を解決しようとする児童が多い

<肯定的な回答が多かった質問事項>

- ・授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ
- ・各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた
- ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた

総合的な学習の時間でも、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますが、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的な回答が低かったので、今後地域あるいは社会における問題意識を高め、課題解決していく学習に取り組めます。

○「課題」であること

△平日の家庭学習や読書の習慣を身に付ける必要がある。

- ・平日家での勉強時間の平均が1時間未満である
- ・平日、授業以外の読書時間の平均が30分未満、新聞を全く読まない児童が半数いる

この結果を受けて、読書を推進するために、読んだ本を紹介する『本の紹介カード』を毎月必ず一人1枚以上作成することで読書への意欲換気を行うなど読書指導を工夫します。また、新聞記事への興味を高めたり読むことに慣れたりするように、2週間に1度程度週末を利用して新聞記事をノートに貼って感想を書く課題に取り組めます。